

新入試制度の問題例

愛知県公立高校は現中3生の入試から新制度になることはすでにご承知だと思いますが、その入試問題において新たに付け加わる「これまで以上に思考力、判断力、表現力等を測る出題」の例が先月の半ばに愛知県教育委員会より発表になりました。今回、国語の出題例の一部をご紹介しますと思います。是非挑戦してみてください。

(問い) 次の文は、ある生徒が第五段落に書かれている「創造的退行」についてまとめたものであるが、内容や表現に不適切な部分がある。それらを最も的確に指摘しているものを、A群及びB群からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

* 「創造的退行は、人が創造活動を活発に行っているときに、意識して子どもの頃にかえるようなこころの状態になり、普通では思いつけないようなあらたな発見のきざしが生じる。」

A群 (内容についての指摘ア～エ、ここでは割愛)

B群 ア 指示語の指示している内容が明確ではない。

イ 主語と述語がうまく対応していない。

ウ 修飾語と修飾される語がうまく対応していない。

エ 副詞をそれにふさわしい語で受けていない。

まずは問いの意味がわかりましたか。つまりこういうことです。「次の文のおかしいところを見つけなさい。内容のおかしさの指摘はA群から、表現のおかしさの指摘はB群から選びなさい。」ですね。教育委員会からの発表には第五段落の要旨が掲載されていて内容もわかるためA群もあったのですが、紙面の関係上今回は割愛させていただきました。内容がわからなくても文の表現の不適切さなら見つけられますので上のB群から選んでみてください。

いかがでしょうか。問題となっている文の気持ち悪さを感じられましたか。さらに、どこがおかしいから気持ち悪いのかもわかりましたか。答えはイですね。主語と述語がよれています。これはやはり国語力を必要とします。そういう意味では実力を測るためのおもしろい問題だと思います。ちなみにこの文を主語と述語の正しく対応した文に書きかえてみましょう。いくつかパターンはありますが以下は一例です。中3生は宿題にしましたができましたか。

「創造的退行とは、人が創造活動を活発に行っているときに、意識して子どもの頃にかえるようなこころの状態になり、普通では思いつけないようなあらたな発見のきざしが生じる現象を称したものである。」(内容は第五段落の要旨に合っていないままです。表現のみ直しました。)